

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

令和元年十月度 入選句（投稿総数三千二十八句・一般投句数七百二十四句）

特選

汀女忌や腕まくらして読みきかせ

大垣市

清水 迪子

中村汀女の忌日九月二十日。彼女の句に「あはれ子の夜寒の床を引けば寄る」「咳の子のなぞなぞあそびきりもなや」など母子の情愛を詠んだものがある。

掲句は添い寝して絵本を読み聞かせている様子。子が寝入った後、汀女のことを頭に浮かんできたのであろう。

運慶の阿の口通る風爽か

大阪府大阪市

梅田 清麗

鎌倉時代の仏師運慶の彫った阿吽の仁王像は有名である。阿形は口を開け、吽形は口を閉じている。その阿形の口を爽やかな秋風が通り抜けていると言う発想が面白い。仁王の表情や周りの景色まで見えてくる。

石庭はさざ波ばかり秋の風

大垣市

新町 恵子

石庭、枯山水は水を用いず、おもに石と砂礫で地形を作り山水を表現している。水を表すのには砂を敷く。それに箒目を付け波のようにする。確かに細波ばかりだ。「言われてみればそのとおり」が俳味である。

秀逸

秋晴れや健脚揃ひの郷土史家

東京都世田谷区

関戸 信治

立て終へし畝のふつくら夕月夜

養老郡養老町

田中 紫香

食パンの耳の甘さや窓の秋

福井県敦賀市

山田 美千代

鍵っ子の鍵まで濡らす秋の雨

養老郡養老町

山田 順子

吊柿を見上げて入る祖母の家

岐阜市

森 穂子

小鳥くる川に立入禁止札

愛知県豊橋市

大河 清女

秋風や語り部の背に馬防柵

大垣市

平野 きぬよ

食卓は妻の文机秋灯火

大垣市

森 茂寿

西瓜喰むそれぞれ好きな方を向き

三重県津市

村山 好昭

墓洗ふ父の背中と思ひつつ

長野県下伊那郡

長沼 まさし

入選

向きかへて調子整ふ神輿かな  
かなかなの息継ぎ五秒夕まずめ  
人力車客乗るまでと秋日乗せ  
霊木に斧たたみをり祈り虫  
家中に雨音のごと秋蚕飼ふ  
滑らかにピアノ連弾秋深し  
読みかけの宇治十帖や秋の風  
草刈の鎌飛び越える飛蝗かな  
小鳥来る山にまつ赤なログハウス  
秋麗や伽藍に光る葵紋

|         |     |     |
|---------|-----|-----|
| 福井県敦賀市  | 山田  | 美千代 |
| 神奈川県大和市 | 岩田  | 爾瑠  |
| 大垣市     | 日比野 | 友子  |
| 養老郡養老町  | 田中  | 紫香  |
| 大垣市     | 傍島  | 豊子  |
| 京都市京都市  | 八田  | 弥須子 |
| 本巢市     | 堀部  | 教代  |
| 本巢郡北方町  | 三輪  | 幸恵  |
| 大垣市     | 岡田  | あや子 |
| 大垣市     | 森川  | きよ子 |

入選

いわし雲飛行機雲に射ぬかれる  
水澄むや藻の影長くむすびの地  
ネクタイを締めて一先づ秋思解く  
どぶろくの土産重たく旅終る  
いつまでも泣いてはおれぬいわし雲  
星月夜中天に身を委ねけり  
鉄砲も鬼も百合の名香を放つ  
秋空を誉めて寺苑の掃除せむ  
墓石に不時着したる蝨蜥  
指たおやかに身はしなやかに風の盆

|          |    |    |
|----------|----|----|
| 埼玉県さいたま市 | 増田 | 信雄 |
| 愛知県岡崎市   | 佐藤 | 邦子 |
| 大垣市      | 神野 | 武彦 |
| 安八郡輪之内町  | 野村 | 照子 |
| 養老郡養老町   | 佐藤 | 礼子 |
| 大垣市      | 辻  | 和代 |
| 不破郡垂井町   | 中西 | 弘子 |
| 不破郡垂井町   | 高木 | 初枝 |
| 大垣市      | 田口 | 貞善 |
| 三重県四日市市  | 後藤 | 允孝 |

選者吟

千曲川の曲を襲へり秋出水

武直